

台風16号

災害発生日●平成16年8月27日～31日
 主な被災地●中国・四国・九州地方

満潮時の台風襲来で高潮被害 浸水戸数は3万戸を超える

台風は、雨、風だけでなく、波の力を増幅して沿岸地域に多大な被害をもたらす。それがはっきりと表れたのが台風16号だった。8月の満潮時という最悪のタイミングに襲来、吸い上げ効果や強風の吹き寄せという条件も重なって高潮が発生した。それが高松市に襲いかかったのである。人的被害は死者14人、行方不明者3人、負傷者288人。住家被害は全壊35棟、半壊133棟、一部破損8909棟。



各地で観測史上最高潮位 高潮は街を海に変えた

台風16号は、8月30日に鹿児島県串木野市付近に上陸、九州を縦断した後、山口県から能登半島沖を進み、31日には北海道に再上陸した。

この台風は、瀬戸内地方に高潮による大きな被害をもたらした。年間で最も潮位が高くなる時期と台風の襲来が一致したうえ、気圧低下の吸い上げ効果による海面上昇、強い風による吹き寄せという3つの条件が重なったからである。高松港では従来の最高潮位1.94mを上回る、観測史上最高の2.46m

を記録し、また岡山県宇野港でも、観測史上最高の潮位に達した。

特に被害が大きかったのは香川県高松市である。30日の午後9時過ぎから沿岸部の道路が冠水しはじめ、河川沿いに海水が逆流、海水は沿岸から約2km離れた木太町にまで達した。高松市の中央商店街や地下道は川のような状態になった。最終的には市内1万5000戸以上、980haが浸水、水没した乗用車内や自宅の居間で水死した人も出た。

水の深い場所では腰まで水に浸かるような状態であったため、電気、ガス、水道などのライフラインが遮断されたのはもちろん、工場の機械、事務所や商店の事務機器も故障した。銀行や郵便局のATMが停止し、

一般商店やコンビニ、スーパーで営業できなくなったところも少なくない。香川県内の停電は延べ約2万8000戸となっている。

自動車は電気系統が故障する、道路の冠水で動けなくなるといった事態が発生した。そればかりではない。車両火災も頻発した。エンジンがかかったままでバッテリーのつなごうている車が、高潮で冠水したため電気配線がショートして車両火災となったものとみられる。

公施設では、高松市中央卸売市場に海水が浸入し、入荷していた野菜類が水浸しになった。また、県民ホールが浸水で一部使用不能になり、高松市立図書館では地下2階の書庫に、排水溝から逆流した海水が流れ込んだ。浸水戸数は、岡山県や広島県も加えると3万戸を超えた。

高潮がおさまった後も、すぐには水が引かず、高松市の瀬戸内町、松島町、築地町などの住宅地では、県警や消防隊がゴムボートで取り残された高齢者を救出する事態となった。また、福岡町は浸水によってポンプが故障したことなどで、31日の夕方になっても水が引かなかった。

だが、水が引くと今度は、道路や路地にゴミの山が残る。その量は推定で約2万5000tにも及んだ。家財がほとんどゴミになる、仕事に必要な機器が全く使えなくなるなど、災害は市民生活に大打撃を与えた。ゴミの処理は、後々まで大変な負担となって市と住民にのしかかった。



▲街中が浸水しボートで救助される人たち（高松市松福町）〔写真提供／毎日新聞社〕



▲高潮により浸水した高松市街（福岡町）〔写真提供／四国地方整備局〕

愛媛県では肱川が氾濫 高知県で過去最悪の停電戸数

高潮以外の被害では、愛媛県の大洲市の水害が大きかった。愛媛県では県内全域で多量の雨が降った。大洲市では、1979年以降の観測史上最高となる日雨量179mmを記録、さらに山間部でも大量の降雨があった。これによって肱川が増水し、30日の午後10時過ぎに氾濫、町の川沿い一帯が泥水の湖のような状態になった。避難勧告を受け、住民約200人が近くの公民館などに避難した。

強風の影響が大きかったのは高知県だ。窓ガラスの破損、家屋の屋根の破壊、樹木の倒壊などが相次いだ。看板、ビニールなどの飛来物、倒木などによって電線が断ち切れ、停電も続発した。高知県内の停電戸数は19万戸を超え、過去最悪となった。



▲高松市の高潮浸水区域図〔資料提供／四国地方整備局〕